



## 本部長がラジオで自衛隊をPR

自衛隊東京地方協力本部 本部長 岸良知樹陸将補は1月8日、東京都江東区のコミュニティラジオ局レイボータウンFMの「大江戸ワイドスーパーモーニング」に出演した。

当番組には自衛官募集相談員でもあるレイボータウンFM放送株式会社小嶋映治代表取締役からの提案により、平成21年から月2回を基準に東京地本の隊員が出演しており、岸本部長は令和2年1回目の生放送で自衛隊をPRした。冒頭、昨年の台風被害に伴い自衛隊が実施した災害対応の内容を紹介するとともに、被災された方々へのお見舞いを述べた後、自身の生い立ち、防衛大学校への進学を志すきっかけや特異な経歴である防衛大臣副官としての勤務、現在、本部長としての勤務している東京地方協力本部の任務等について紹介した。

また、これまでの自衛隊勤務において印象に残っている事項として、東日本大震災を含む10回の災害派遣を挙げた。指揮官として活動した際は、「全ては被災者のために」という意識の下、懸命に活動する部下隊員を誇りに思うとともに、一番嬉しいのは、地域の皆様からの感謝の言葉であり、特に小さなお子さんから可愛い敬礼動作とともに「ありがとう」と言われると、ほっこりして何とも心地よい気持ちになりますと述べた。ただし、災害派遣は、自衛隊も大変な側面はあるものの、本当に大変なのは被災者の方であること、そして自衛隊の行動の準拠とすべきは国防、武力攻撃事態であり、このための厳しい訓練を行うことによつて、災害派遣活動で整齐と行動することができると思われた。

次いで自衛官という職業の意義を「平和を創る仕事」と表現し、防大一期生に対する吉田茂元首相の言葉と自衛隊高級幹部における安倍総理大臣の言葉を紹介し、現在は、信頼できる組織として真っ先に自衛隊の名が挙がるようになったものの、これに甘んじることなく職務の宣誓を改めて肝銘するとした。

また、自衛官の人材育成、キャリアアップについて、職域が幅広いことや教育が充実していること、給与、処遇について解説した。パーソナリティーは「多くの方のイメージと違い、みんなが常にほふく前進をしているわけではないということですね」「繰り返し教育は最近すごく言われていますが、自衛隊はむしろ先取りしているということですね」と応じていた。

最後に自衛隊家族会の活動等を紹介し、保護者に向けたサポート態勢について案内するとともに、自衛官募集ホームページ等を紹介し、最寄りの募集事務所等への来所を呼びかけ締めくくった。

東京地本は今後も様々な手段により積極的に自衛隊をPRし、自衛隊への理解の深化に努めていくとしている。



YouTube「RainbowtownFM88.5MHz」チャンネルにて現在視聴可能です。

## 体験型の訓練で防災意識を向上

### ～「外国人のための防災訓練」に広報ブースを出展～

自衛隊東京地方協力本部（本部長 岸良知樹陸将補）は1月28日、東京都調布市武蔵の森総合スポーツプラザにおいて実施された「外国人のための防災訓練」において広報ブースを開設した。

これは東京都が都内在住外国人に対し災害への備え等について啓発を行う目的で実施したものであり、東京地本は東京都生活文化局からの依頼に基づきブースを出展、東京消防庁や警視庁調布警察署等あわせて24個のブースが展示エリアに並んだ。

当日は都内在住外国人及び44か国の大使館職員等224名が参加し、6個のグループに分かれて各ブース等を研修した。東京地本のブースでは北地域事務所所長 佐野3陸佐が自衛隊LIFE HACK（ライフハック）を参考に災害が起きた時の正しい行動をクイズ形式で出題し、募集課 櫻井3陸佐がそれを通訳して参加者に説明した。参加者は両腕でOやXを作つてクイズに回答し、参加者体験型のわかりやすい防災教育に真剣に取り組んでいた。

災害時に必要な生活用品等を身の周りのもので作る場面では、ネクタイや手拭いで止血する方法、懐中電灯とレジ袋で作るランタン、段ボール箱に丸い穴を開けビニール袋を中に入れて作る簡易トイレ等を展示した。ビニールシートと新聞紙で寝袋を作るコーナーでは、実際に中に入って寝心地を確かめる参加者もいて「とても温かい。このシートは普通のお店で手に入るようなレジャーシートでも良いのですか」等の質問もあった。

東京地本は今後も様々なイベントに参加し、参加者体験型のわかりやすい防災教育等を通じ、防衛省・自衛隊に対する理解促進に努めていくとしている。

